

## 【中学校に進学した子どもたちから学ぶ】

この春中学校に進学した11期生の子どもたちは、これまでに2回の実力テスト、中間試験、3回の10分間テスト（5教科でそれぞれ20点満点の小テスト）を経験しています。ときどき小学校に立ち寄ってくれる子たちからは、実力テストが難しかったことや10分間テストで何点だったというような話題が出ます。中学校は学習の進み方が早いので、その日に学習したことの復習をしっかりとやる習慣がないと10分間テストでも満点を取ることはできないでしょうし、悪ければ追試もあり得ます。しかし、復習をきちんとして試験に向かえば誰でも5教科全てで満点をとることも可能です。実際これまでの10分間テストはほとんど満点だった子もいます。中学校での生活が始まって3ヶ月が経ちました。クラブ活動においても、これまでは新入生扱いをされてきた子たちもそろそろ一部員として扱われ、ときには厳しいことを言われたり、厳しい練習が課せられたりすることもあるでしょう。そういう環境の中で、新しい生活に取り組む姿勢が今出来上がろうとしています。

1期生の男子が高校を卒業しようとしていた頃に、その10分間テストについて、「自分の勉強の一番の基本・一番大切にしてきた」と言っていたのを思い出しました。そんな彼は見事に慶応大学に進学しました。日々の努力、積み重ねを大切にすることが自分の目標達成への近道なのです。

さて、中学校に進学した子どもたちはいろいろな場面で小学校との違いを感じることもあるかもしれません。一番の違いは、自分でやらなければ駄目だということです。小学生のころは、机に向かう習慣はあっても分からないことがあれば誰かが教えてくれる、勉強するときは母親が近くにいてくれたりときには塾に行き誰かに見てもらったりした子もいたかもしれません。親であれ塾の先生であれ、誰かがそばにいてくれないと勉強に取り組めないようになってしまっただけではありません。「分からないところはないですか？」と聞かれるのではなく、分からないことがあったときに自分から質問する。そういうことが大切です。小学校を面倒見がよいと思っている子どもや保護者がいてくれることはとても嬉しいことです。しかし、面倒見のよさというものは、子どもの成長に合わせて意味が変わっていきます。そこに気づかないと、子どもに自分で何とかしようとする気持ちを持たせることができなくなってしまうことがあります。中学校では、自分から勉強に取り組み、そして疑問に思うことがあれば自分から先生に質問に行く。その環境があることが本当の意味で面倒見がよいということなのだと考えます。中学校進学まで1、2年という小学校高学年では、自ら学び、疑問の解決のために自ら行動できる子どもになってほしいという願いを持ち、そのことを子どもたちに伝えるように発信していかなければならないと思います。

## 【手書き】

6月19日の「天声人語」のはじまりの一文は「文字は書くより打つものとなり、ペンダコは死語になりつつある」でした。そのあとに続く文章は今の政治家・政治への筆者の気持ちの表現であってここにはあまりふさわしくない話題ですので触れませんが、ちょうどその頃ある保護者から、学校でやりとりされる手紙、誕生日カードなどについて、「メール時代に育つ子どもたちですが、手書きの手紙やたよりの温かさを知るきっかけになってほしい」というものをいただいていた。No.63のこのたよりでも、2年生の桐光郵便局の取り組みのことを紹介し、そこでも心のコもった手紙のやりとりについて触れました。

大人に比べれば自分の書く字のほとんどが手書きである子どもたちです。その文字から温かさを感じるチャンスはたくさんあります。こういう素敵な経験ができるときに、子どもたちが「字を書くのがめんどくさい」と思わないようにしたいと思います。

今私たちにできることは子どもたちに文字で心を伝えていくこと。今はそれをどのように受け取ってくれるか分かりませんが、いつか「子どもの頃たくさん手紙やメッセージをもらったな」「嬉しかったな」って思ってもらえるかもしれません。自分がしてもらって嬉しかったことは、次につないでくれます。何年先のことか分かりませんが、大事なことは今私たちが、私たちにしかできないことをしっかりとやることです。

## 【小学校ホームページ】

6月に小学校のホームページが少し変わりました。現在ホームページの作成・更新作業は、小学校の入試・広報部が担当しています。保護者の皆さん、そしてこの学校に興味がある方たちに学校を紹介する作業ですから、責任と根気の要る仕事です。素材としての写真データなども必要となります。日常の仕事と並行して行うのは大変なので専門の方をお願いしてもいいような仕事かもしれません。しかし、それをしないのは、この学校にいる教員、この学校で毎日子どもたちの生活の様子を見ている教員でなければ日々の更新作業ができないからなのです。ホームページはどんなに優れたデザインのものを作っても、仮に年に1回しか更新されないものであればほとんどの人が見てくれなくなります。桐光学園小学校のホームページは手作りであるがために、学校の基本情報をしっかり紹介し、かつ生きた学校情報・子どもたちの生活ぶりを皆さんにお知らせするものになっていると思っています。ホームページについては、学校側で考えた方向で現在作成を進めていますが、もしも、保護者の皆さんからのご意見をいただければさらなる充実に役立てることができるとは思いません。